

♪君はしゃんと胸を張っていいのさ

不登校でも前向き

小中学校時代に不登校を経験した大津市在住の男性3人組のアマチュアバンド「JERRYBEANS（ジェリービーンズ）」が昨秋、不登校への理解を呼び掛けるNPO法人を設立。今年は、全国の小中学校など約100カ所まで、不登校でも前向きに生きるよう訴える音楽ライブと講演を行う計画を立てている。当初は封印してきたつらい体験を、知人教諭らの助言で歌詞に織り込むようになったメンバーたち。「焦らないで、自分たちのペースで生きることを伝えたい」と話している。



不登校の経験を題材にした曲などを演奏する、ボーカルの山崎史朗さん（右）とドラムの兄、雄介さん（左）一遊習院栄東市（本間英上撮影）

文部科学省によると、全国の小中学校の不登校児童・生徒数は、平成13年度の13万8722人をピークに近年は減少傾向にあるが、22年度も11万4971人と依然10万人を超えている。一見た目には元気な山崎史朗さん（28）が作詞した代表曲「果実」の一節。リーダーでベースの八田典之さん（28）は「不登校を受け入れ、堂々と生きていくことを示したかった」と説明する。バンドは、八田さんと山崎さん、山崎さんの双子の兄でドラムの雄介さん（28）がメンバー。いずれも小中学校の時、人間関係などが原因で不登校を経験した。中学生のとき、不登校の子

大津 経験者3人のバンド、NPO設立

供と保護者が集まる催しで、八田さんと山崎さん兄弟が会ったのがきっかけとなり、ロックバンドを結成。中学卒業後、大津や京都のライブハウスで理想や悲しみなどをテーマにしたオリジナル曲を演奏してきたが、苦しかった不登校の経験は、あえてテーマから外してきた。「今も不登校の子供は多い。経験を歌ってほしい」。平成22年夏、知人の複数の教諭に勧められ、中学校で行われたライブで、それまで人前で語ることをなかった不登校の体験談を初めて話した。反響は大きく、以後毎月、滋賀県内の小中学校などで開くライブで不登校を題材にした曲を披露し、体験を伝えてきた。曲の評判が口コミで広がり、講演依頼も来るようになった。3人は昨年11月、支援者とともに講演活動を行うため、NPO法人「マイペースプロジェクト」（大津市）を設立。そのころから、依頼をもとに活動を全国各地の小中学校や障害者施設などに広げ、歌と講演を通じて遊壇にあげないよう呼びかけている。「正直、不登校のときはつらかった。でも、それを経験したからこそ、歌謡や講演に説得力が出てくると思う」。山崎史朗さんは「一人で多くの子供にくじけないでと訴えたい」と話している。